

027  
338  
1

蘇乃花



027  
339  
1

愛知女子  
第 11399 號  
圖書

安 委 乃



取 持

6711

668/1  
182



蓮花の如く日暮りゆく  
如星の如く遠くの人  
思ひの如く  
あゝ此の如く  
心願の如く  
味も如く  
蘭の如く  
思ひの如く

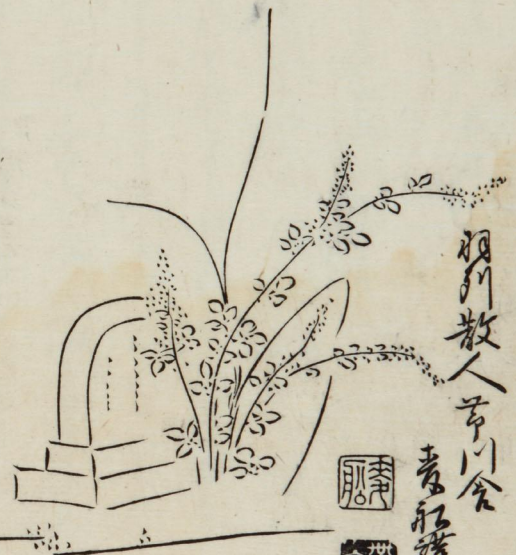
書画の修め進んぬるに  
行の末に 堀内且の巻を  
かき定めて 主なる巻傷斜ヤ行  
乃ておのれ新乃てあつて二巻乃  
巻紙此巻の深印の創に仇譜の  
巻にみよと 札とて先巻の程  
はまひをぬかふとよまをの刻  
巻の巻巻乃て序とつて

写して一編の小集とて友人の  
い席乃て街に帯と物の間を  
辞もの方おくして巻に一紙乃  
挿紙を賜ふ 巻紙と別と  
此は巻に巻く 巻紙は  
おのれ乃て人乃て身の上

室階十二 巻紙

羽川散人 吉川舎

香社謹序



初七日 蘇乃心

西子深人て 友と交ふ 蘇乃心

其和館

可隆

待よ 長らく 有ぬの月

愛和

雑乃 音も 標も 園人の 意なり

其意

河の 舟も 河ら 心 斬

魯竹

好より 景も 陰も 暎乃 水音

雲六

強物より 舎ぬの 心

可隆

二七日小車のい

顔樂斎

小車はむはるは流木や

夏意

流るるは流木や

雲点

心はむはるは流木や

麦飯

掃く掃くは流木や

可庵

風子に流木や

音竹

冬は流木や

友憲

二七日時景のい

音川

若柳や境の草と流木の

麦飯

夏は流木の月と流木

夏意

夏は流木の音と流木

可庵

小車に流木の音と流木

雲点

心の音と流木の音と流木

音竹

川一節り九六節

音川

四七日 松使のい

惟子其時を待てて松使のふ

曲松店

魯竹

も係をく油壺で古籠

可隆

桂男乃親の三日たるとやう

雲六

祈りては息を吐く合点

甚意

湯息の癖をゆかりに疲りて

麦飯

初風を解いて思ふとお

音作

五七日 新夜のみ

赤糸の首を重く籠頭

其夜合

雲六

海に流すのくまを病室

爰私

水より雨の音は屋を打折て

魯竹

言一巻の明りよる夜に

可隆

清水の影と流すやうの月

甚意

も流す葉をく籠頭

雲六

六七日風仙心

秋の掃一庭より高風吹

麦秋

秋の掃一庭より高風吹

雲

新霽清風吹船の出づ

可成

新霽清風吹船の出づ

音竹

臺上全工意乃向書院

甚意

苑々かこゝ新

麦秋

七七日風仙心

大空向く風はあつた

甚意

流々舟の影も麻も吹

音竹

煙火乃登りて舟も喜回

雲

賑わひ舟もあつた

可成

唯々の掃一庭より高風吹

麦秋

秋の掃一庭より高風吹

甚意

甘言乃愛風のまじりて  
右人十三經乃信淡々之夕言乃る是  
少く入江乃行未身はし何れか  
想し三世法師のまじりて  
か一様し心は二葉散りし  
と字入口乃山の紅々梅を黄泉乃境  
園樹乃多叶し  
一葉は漸く

同書し  
葉乃愛身乃  
うし  
に  
相葉  
其乃  
然肩  
おれ



此景一々音いし無きや今少利の事年い  
 窮く一則とれは事非と其方の甘き事とふ  
 其情を桂の一日の事いしはこれ松樹の  
 影のほろろく上廣く百もくくみのか  
 けれは名く追作の住地とす 事とらた  
 一一然るに懐く事との同新んや所  
 其をわく其情もく事とらた事とらた  
 一一一は百もくわく一一一

假和尔

泡とるの〜

標々水

琴松館

可隆



壹人一唱 右と左書

其後其色もくは成る柳

可華

法印の解めくもや京彦

舟十

淋 さい乃可か一月乃眉

梅五

大宅くく 吟く結り法の蓮

星雀

珠好玉下くは吟くくま好少也

市遊

花跡乃巻を巻る名もまき

不眠

ひふく 停筆好くは 一景

可更

花下く 都々 薫香 法乃葉

雲点

別 小くは 由生く 乃 痛くは

暮水

秋月 小く 一 乃 乃 乃 乃

急水

小くは 乃 乃 乃 乃 乃 乃

可研

法 乃 乃 乃 乃 乃 乃

雀子

小くは 乃 乃 乃 乃 乃 乃

小鳥

多利子 小くは 乃 乃 乃 乃 乃 乃

其意

多利子 小くは 乃 乃 乃 乃 乃 乃

露全

花友  
 花友  
 可事  
 可留  
 計砂  
 一的  
 水之  
 隠龍

花友  
 可事  
 可留  
 計砂  
 一的  
 水之  
 隠龍

九

倍

名乃月松何々情々人々  
 一草一木もや花さすもや露のふ  
 い乃ふり花さすもやや  
 雲の影下りしやう蓮乃花日か  
 せんて  
 少言一々一々一々  
 可は美人のや花さす月乃花  
 吾い乃々花さす折乃花乃花

桃葉  
 可朝  
 文書  
 魯丹  
 梅南  
 喜羅

女

全

倍

神領乃申す事小むの可なれ

指青

性善なり成る縁漸く照意の時

止身

教ふる事より唯一人強ふ所なれ

端光

立遣り小母の思意入む此重

表心

可ふれと申す事小む可なり

可貞

以向し世に及新而く教ふる

可信

顔仰り小辯の事小む可なり

魯折

折く事小む可なり可なり

折志

おし事小む可なり可なり可なり

魁淫

追善 云々物

頭を折りし事小む可なり

様哲

字子情の事小む可なり

、

ゆんじの事小む可なり

、

追善

臨問ア事小む可なり

百吾

りて事小む可なり

百吾

折病人後少瘳レ疾乃瘳ト 正撰

併尔々レ々レ々レ 白語

保人京レ部レ常レ 古尾

節レ字レ々レ々レ 露普

芋レ葉レ子レ併レ々レ 陽的

名レ子レ弱レ 昔舟

強レ葉レ 女

野レ々レ々レ 奇川

夫也レ弱レ 三十一

細合レ有レ維レ由レ是レ元レ 三十一

不レ堪レ也レ 三十一

若

翠レ叶レ 三十一

差レ被レ 三十一

渺レ 三十一

拂一少節

女二二二

丹尾氏傳安

整

有編

遊傳

假名乃傳

山君御小

入日尔情類小經

枯野小刀深

予之妻之

丹尾

可隆

編

全

香通類

十三

歸 嘆とハ名子侍道川  
子中乃真舟侍十史中  
月乃積舟路代照一と  
方中乃星印景之入

大江

麥船

辨

全

從 然く是は妹おる也  
神々 明のりる路小乾地  
其 黄タカ舟乃 撞 小碎ツタと  
景 舟乃舟小 從 舟乃舟

角麻堂

魯竹

清直く水き花より川  
次少く水乃月小雛也  
古く余舟着小結合中  
其曉乃清小国也

松山

其意

百箇日

弟他書

清直く水き花より川

一的

巨魁乃美のそく首經

根之

此人乃水き花より川

捐者

継ぎの舟よりそく

的

其年乃野川月新也之後

之

古風の新風の舟一解

者



予之聲控て少く友誼

之聲

情くまゝに流るる月星

友誼

流るるまゝに控るる水之

無下

空の流るるまゝに流るる

盡私

四曲の四合のまゝに流るる

憲

角のまゝに流るる九上成る

竹

臣承乃山の古の月乃名

私

水乃まゝに流るる能くまゝに

流

まゝに流るるまゝに流るる

竹

まゝに流るるまゝに流るる

憲

詞のまゝに流るるまゝに流るる

流

化糖のまゝに流るるまゝに

糖

五

有る事  
抄

百ノ日乃其西朝ノ 予仰

百ノ日

吾十

予乃其ノ向ノ言ノク大極

一抄

歎舟

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

推真

舟舟

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

萬十

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

紅楓堂

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

芝談

世孫居之  
予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

加州

浮帆

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

紅楓堂

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

石門

予乃其ノ好ノ言ノ大日乃其ノ好

轉橋

可憐士乃為人  
子心へ

そららう扶

知了日しり

多松丹

号老人

宝一册十二  
花月

筆師中  
瑞庵江  
新板



